事業の実施状況等について
【生野区】　（受託者等：株式会社コリアジャパンセンター・大阪NPOセンター共同体　）

1　地域活動協議会の現在の状況についての分析（年度当初・期末）（受託者が記入）

項目		
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）	(1)「Ⅰ　地域課題への取組」についての分析	直近の2年間での地域事情に合わせた広報支援、事業支援、繋がり育成支援の結果、地域内で繋がった人脈で地域を変えようとする「意識と行動の変化」が生まれてきている。その反面、トップダウンや前例踏襲などの従来の意思決定方法により、活動が固定化されていたり、補助金に頼ってしまう体質が根強い。 地活協が将来を見据えた会議を継続的に行い、現状を「見える化」し問題を整理、分析していく必要がある。また、外部の意見も積極的に取り入れながら、地域課題を解決していくことが必要である。
	(2)「Ⅱ　つながりの拡充」についての分析	外部団体が地活協の行事や防災計画に参加したり、地域の若手発掘をテーマにした企画が生まれるなど、つながりの拡充に向けて地域が動き出しているものの、効果的な結果に結びついておらず苦労が見られる。 「新たな担い手づくり」や、「外部からの参画」 の実現ため、若手などの声を聞ける場づくりや、地域活動協議会をわかりやすく広報していくことが必要である。
	(3)「Ⅲ　組織運営」についての分析	地域内での意思疎通が上手く行われておらず、総意形成機能が働いていないため、すばらしい事業を行っても責任者・担い手ともお互いにストレスが溜まってしまう地域が見られる。 地域内で責任者・担い手ともに参加することができ、何でも話し合える場を作り、継続的に行うことでスムーズに世代間継承等につなげることが必要である。

２ 支援の内容及び効果等（1） 上段は受託者等が記入、下段は区が記入）

（※）Ⅰ・地域課題やニーズに対応した活動の実施　・法人格の取得
Ⅱ・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進　・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働（担い手の拡大を含む）【地域活動協議会内部】
・地域活動協議会を構成する活動主体同士との連携・協働【外部との連携】　・Ⅱ地域公共人材の活用」
Ⅲ・議決機関（総会・運営委員会等）の適正な運営　・会計事務の適正な執行　・多様な媒体による広報活動」

項目（※）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	事業者選定時における企画提案（事業計画書）の概要	（上段）支援状況（実績） （下段）支援状況に対する区の意見	（上段）左記の支援効果 （下段）支援効果に対する区の意見	（上段）左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 （下段）課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
事業の実施状況及び効果 「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」	○	○		子育て支援を軸にした世代間交流 ・まちづくりサポーター「いくすく子ネクト」による子育て支援	まちづくりサポーターとして活動しているいくすく子ネクトによる「子育てサロン」の取材・PR　2地域	まちづくりサポーターであるママさん世代の「いくすく子ネクト」が「子育てサロン」を取材し、SNSで発信することで、同じママさん世代の方に地域活動のことを身近に感じてもらうことができた。また、民生委員、児童委員の人達とも繋がりができ、協力して地活協のイベントを開催するという動きもでてきた。	多くの地域ではまだまだ保守的な意見もあり、交流できていない。今後、コツコツと小さな交流を積み上げ、まず話を聞いてもらえる関係を築き上げていかないといけない。
					既存事業である「子育てサロン」に対して、子育て支援に精通したメンバーによる新たなアプローチができている。	**まちづくりサポーター自身が子育て中のママであることから、参加者に近い立場での支援を行うことができている。広報面での新たな広がりができた。民生委員とのつながりも徐々にできてきている。**	**今までの活動も大切にしながら、事業全体が活性化できるよう引き続き取り組んでいってほしい。また、参加者と近い立場である利点を活かし、新たな担い手発掘につながる可能性も探っていってほしい。**
	○	○		多文化共生事業「サラダボウルプロジェクト」　・異文化交流事業による担い手づくり支援	多文化共生農園での交流会運営　7回 IKUNOサラダボウルプロジェクトin大阪聖和保育園　3回 異文化交流in巽東会館（7月12日） おにぎりワールドカップin舎利寺会館（8月20日）	サラダボウルプロジェクトも2年目を迎え、外国籍住民と交流したことがない住民に異文化交流体験を行うなど、新たな企画を複数企画、実施できた。またイベントをきっかけとして、異文化交流を続ける地域がでてきた。	・地域の人に異文化を理解してもらうため、外国籍住民との交流の場をどんどん作っていく必要がある。 ・サラダボウルプロジェクトが独自で行う異文化交流イベントの参加者を、地域活動協議会に参画する仕組みを作っていき、生まれ始めた異文化交流の芽をしっかりと育てていく必要がある。
					多文化共生については、高齢者向けの取組み、小学生向けの取組み、子育てママ向けの取組みなど、幅広い対象に向けて事業の創出・支援を行っている。外国人支援員も地域に浸透してきており、多文化共生に対する興味を持つ地域が増えている。	**それぞれの取組み内容について、参加者からの評判はよく、また異文化交流事業を継続して行う地域がでてきたことは大きい。外国籍住民が多いという区の特色をチャンスととらえ、それを事業として実施していこうと地域の人を動かす支援ができている。**	**外国籍住民と地域住民とのコミュニケーションがとれていないため、災害時の受け入れや生活面（ゴミ問題）などが地域で問題となっているケースがある。外国籍住民と地域とのつながりのきっかけづくりを引き続き行ってほしい。また、受託者の記載のとおり、イベントへの参加のみならず、地域の新たな担い手として外国籍住民の参加ができるような仕組みづくりの構築を目指してほしい。**
	○	○	○	生野まちづくりの今を知る勉強会「まちレク」　・地活協の活動を周知するために行う毎週開催のレクチャー	区民の地活協に対する意識改革と認知度アップをめざしスタートした。原則毎週金曜日にYoutubeにアップしている。8月末時点で生野区内の様々な場所において22回開催し、SNSで延べ2553回の動画再生回数があった。	視聴回数は少しずつ増加している。 テーマによって反響の多い回があった。（台風上陸をリアルタイムで実況しながら防災をテーマにした回の視聴回数が伸びた）	まちレクを毎週行うことにより、地活協の認知度アップのための実験台になることで今後の活動の見本にしてもらえるようにしていく。 また、地域活動の現場に出向き撮影を行うなどして、視聴者だけでなく、参加者を増やし、視聴回数をさらに増加できるよう工夫を行う。 中身（コンテンツ）が重要であることがわかったため、テーマの選別にも力を入れいていく。
					今までにない革新的な取組みである。新たな情報発信ツールとして効果的である。動画のアップも週1回という高頻度で継続できている。	**内容により視聴回数が増減することがわかったが、効果はこれからである。**	**自らが広報を体現しており、地域へその姿を見せることにより、地域が新たなアイデアを生み出すなど、今後の効果に期待したい。取組みの特性上、一方向のコミュニケーションであるが、定期的にレスポンスをうかがう機会をつくるなどの工夫もしていただけたらと考える。**
			○	「地域虎の巻」事業・虎の巻会議 ・地域課題の発見・共有・解決に向けた会議	8月末で13地域で開催 月2回区担当者と打ち合わせ	地域虎の巻会議をきっかけに、地域活動協議会のあり方について、新たに疑問が生まれ、その疑問を地域内で話し合い、改善していく動きも出てきた。中には「虎の巻会議」から斬新な企画が生まれ、実現した地域もある。それとともに同じテーブルについてじっくり話し合うことにより、今まで言えなかったことや考えていたことをカミングアウトすることによって人間関係の膿を出して、新しい絆を生んでいる場合もある。	「地域虎の巻会議」を単なる勉強会と捉えている人達がいるのも現実で、「なぜするのか」を開催前に説明することが必要である。決して否定的な会議とならないように新しい企画や若者の意見を否定しないなどルールを作り、前向きな会議とする仕組みが必要である。　そして、単に回数だけ増やしていくのではなく、　認識された課題について、何か解決策が生まれているというゴールをもってマネジメントしていきたい。
					当区では、地域カルテ作成にあたり、作成過程（地域虎の巻作成会議として、地域内で地域課題について話し合いを進めていくこと）に重点をおいている。地域虎の巻作成会議の参加メンバーや方向性など、区と密に連携し、情報を共有しながら進めている。	**地域虎の巻会議を行い、認識された地域課題に対して、さらに話し合いを進めたり、解決手法を模索するなど、地域の前向きな運営につながっている。**	**なぜ地域虎の巻会議が必要かを理解して、地域課題を認識、共有し、課題を解決するために行動実践する、というサイクルを自主的に回していける地域をひとつでも多く増やせるよう、引き続き区と協力しながらマネジメントしていただきたい。**
		○		生野の未来を想う交流会「まちカフェ」 ・生野区の活性化のアイデアを語り合う中で担い手を発掘し、地域で活躍できるよう支援していく交流会	毎月第3土曜日　全5回開催（通算28回） 例）LEGOワークショップ	地域活動協議会地域の会館の利活用をテーマとして開催した回では、地域活動協議会の担い手と、まちづくりに興味のある人との交流や、他区の地域活動協議会との交流ができた。	気軽に参加できる「まちカフェ」を継続して開催し、引き続き新たな担い手発掘を行う。また、今後は地域活動協議会など地域へつなげられるような工夫をさらに実施していく。
					毎回テーマ・開催場所を変えながら、継続して実行している。まちカフェの中で出会ったメンバーからできた団体が、現在まちづくりセンターのサポーターとなって活動するなど、新たな担い手発掘につながる取組みである。	**他区との交流や地域活動の担い手ではない人との交流を通じて、地域活動協議会の担い手に新たな視点を持たせることができた。**	**地域活動協議会との連携を促進できるような仕掛けづくりをするなど、マンネリ化しない工夫をこらしながら、継続して開催している。今後もさまざまな立場の人の交流をきっかけに生み出される可能性に期待したい。**

３ 支援内容及び効果等（２）（上段は受託者が記入、下段は区が記入）

支援		事業者選定時における企画提案（事業計画書）の概要	（上段）支援状況（実績） （下段）支援状況に対する区の意見	（上段）左記の支援効果 （下段）支援効果に対する区の意見	（上段）左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 （下段）課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
事業の実施体制等	（1）自由提案による地域支援の実施状況 （企画提案書（事業計画書）等で受託者が提案したもの）	次世代につながる地域活性化に向けた取り組み支援	・まちづくりサポーターいくすく子ネクトによる支援 いくすく講座（4回開催）・子育て支援イベント（3回開催）・子育て関連情報の発信（SNSにて月平均50記事アップ）・地域活動の支援（3地域）	生野区在住のママさん世代に、いくすく子ネクトが発信するSNSを通じて地域活動のことを知ってもらう機会が増えた。事業を通して地域の企業や団体とも繋がりつつある。	今後は地活協の人と連携していくことにより、地活協以外の特にママさん世代の人たちに地活協のことを紹介、説明していくことが求められる。また、行政等との連携を強化しながら効果的に「子育てしやすいまち生野」を発信していきたい。
			今年度から新たに加わったいくすく子ネクト（まちづくりサポーター）により、今までとは違った角度で支援ができている。積極的にイベントを展開しており、子育て層への支援が拡充されている。	**SNSという情報発信の方法は、子育て世代に合わせた非常に有効な情報発信方法である。 活動が子育て支援という目的であるため、地域の企業や団体とも連携が取りやすく、今後の支援が期待できる。**	**今まで地活協の活動に参加していなかった子育て世代をターゲットにアプローチをしていくことで、次世代の担い手の発掘に繋がり、まちづくりへの参画の意識が醸成されると考える。「子育てしやすいまち生野」のイメージが広がるよう情報発信をさらに強化してもらいたい。**
	（2－1）スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	職員のローテーションについて	業務責任者兼常勤アドバイザー1名・地域まちづくり支援員3名・スーパーバイザー3名・まちづくりサポーター3名・外部アドバイザー1名	・スーパーバイザー、まちづくりサポーターの導入により、専門的な意見や人脈、女性視点、地域視点、経営視点（新たなCB/SBなどによる自主財源の確保）などを取り入れることができ、より幅広い支援が可能になった。	専門性のある人員体制により、支援内容の幅が広がったが、より良い支援を行うため、現場での対応力の向上に努め、まちセン内で専門知識や経験を共有する必要がある。
			得意分野を持つ支援員がそろっており、地域からの様々な要望に対応できる体制となっている。また、新たに加わったスーパーバイザーやまちづくりサポーターによる支援体制は今までとは違った角度でのアプローチに繋がっている。	**新たな体制により、昨年度と違った取り組みが進められており、支援内容は拡充されている。特にスーパーバイザーによる地域視点からのアドバイスは地域のニーズに直結するものであり、今まで見えなかった角度からの支援につながり、非常に有効である。**	**各人の持っている経験や情報を共有して地域の支援に活かしてほしい。個々のスキルアップによる現場での対応力の向上により、地域の支援がより幅広いものになるので、各地域に適したアクションを積極的に起こしていったもらいたい。**
	（2－2）フォロー(バックアップ)体制等	・まちセンへのまちづくりサポーターの加入 ・外部アドバイザーとの連携強化及び内部人材の育成	・地域の課題解決のため、担当地域の枠を超え支援員同士で協力し合うことにより、地域にほかの角度からの支援をすることができた。更に支援員では解決できないような問題があれば、まちづくりサポーターや外部アドバイザーと連携をとり、解決にむけての支援を行った。	・本年度より新体制になったことで、外部アドバイザーとの連携がより密にとれることができるようになり、地域に対してスピード感ある対応ができるようになった。	・チームまちセンとして、協力し合って課題解決にあたってきたが、本年度は共同体としての強みをまだまだ活かしきれていない面もあるので、今後は共同体や外部アドバイザーとの勉強会や情報共有を積極的に取り入れていく必要がある。
			担当地域の枠を外すことで、柔軟な支援ができるようになり、各支援員の得意分野を活かした多角的な支援が可能になった。また、今まで手が届きにくかった部分に関してもフォローできるような体制が構築され、地域に寄り添った支援ができるようになった。	**様々な地域の要望に迅速に対応できるようになったことは区にはできない支援であり、非常に有効である。**	**外部アドバイザーとの連携により可能になる支援は多くあると思うので、今まで見えなかったニーズにも対応できると考える。外部アドバイザーと連携しつつ、そこから得られる経験をまちセンでも吸収し、個々の支援員がさらにスキルアップすることで、スピード感ある支援ができるよう期待している。**
	（3）区のマネジメントに対応した取組	・「区担当者」と「まちセン支援員」の役割分担の明確化	・月2回区担当者と打ち合わせ及び常時連携できるような体制の構築	・定期的に連携・連絡をとっていることで各地活協の状況等を共有することができ、ブロックの垣根を越えて各地域に即した支援をすることができた。	現状、区担当者との連携は密に行えているが、目指すゴールに向けて、支援の方向性の統一は一層必要になるため、支援状況の進捗に関して都度確認をしながら取り組みを進めていく必要がある。
			昨年度に引き続き、区とまちセンの役割分担は明確化できている。また、地域情報をタイムリーに共有し、適切な支援が出来るように連携できている。	**目標達成に向けて、区とまちセンで地活協の状況を共有し、地域に即した適切な支援内容を検討することが出来ており、有効であった。**	**目指す目標に対して、区とまちセンの支援の進め方の認識を共通にするとともに、より良い支援が出来るよう引き続き連携を強化し、情報の共有、支援内容の検討を行っていきたい。**

４　区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）の状況及び効果等（上段は受託者が記入、下段は区が記入）

支援策（取組）名称	事業者選定時における企画提案（事業計画書）の概要	（上段）支援状況（実績） （下段）支援状況に対する区の意見	（上段）左記の支援効果 （下段）支援効果に対する区の意見	（上段）左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 （下段）課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
「自ら意思決定」 「自ら事業する」 「自ら人材育成」　　の実現	「地域虎の巻会議」	8月末で13地域で開催 月2回区担当者と打ち合わせ （再掲）	地域虎の巻会議をきっかけに、地域活動協議会のあり方について、新たに疑問が生まれ、その疑問を地域内で話し合い、改善していく動きも出てきた。中には「虎の巻会議」から斬新な企画が生まれ、実現した地域もある。それとともに同じテーブルについてじっくり話し合うことにより、今まで言えなかったことや考えていたことをカミングアウトすることによって人間関係の膿を出して、新しい絆を生んでいる場合もある。（再掲）	「地域虎の巻会議」を単なる勉強会と捉えている人達がいるのも現実で、「なぜするのか」を開催前に説明することが必要である。決して否定的な会議とならないように新しい企画や若者の意見を否定しないなどルールを作り、前向きな会議とする仕組みが必要である。　そして、単に回数だけ増やしていくのではなく、　認識された課題について、何か解決策が生まれているというゴールをもってマネジメントしていきたい。（再掲）
		当区では、地域カルテ作成にあたり、作成過程（地域虎の巻作成会議として、地域内で地域課題について話し合いを進めていくこと）に重点をおいている。地域虎の巻作成会議の参加メンバーや方向性など、区と密に連携し、情報を共有しながら進めている。（再掲）	**地域虎の巻会議を行い、認識された地域課題に対して、さらに話し合いを進めたり、解決手法を模索するなど、地域の前向きな運営につながっている。（再掲）**	**なぜ地域虎の巻会議が必要かを理解して、地域課題を認識、共有し、課題を解決するために行動実践する、というサイクルを自主的に回していける地域をひとつでも多く増やせるよう、引き続き区と協力しながらマネジメントしていただきたい。（再掲）**
「担い手育成」	「自ら人材育成」 「いくすく子ネクトとの連携」 「サラダボウルプロジェクト」 「生野区ポータルサイトの構築」 「まちレク」 「まちカフェ」 「多様な地域活動との連携」 「インターンの受け入れ」	まちカフェ　毎月第3土曜日　全5回開催（通算28回） まちレク　毎週1回　22回開催　　延べ2553回の動画再生回数 サラダボウルプロジェクト　　10回 NPO法人など他団体の地活協行事への参加　23回 地活協での異文化交流開催　　2回	サラダボウルプロジェクトでは、外国籍住民と交流したことがない住民に異文化交流体験を行うなど、新たな企画を複数企画、実施できた。またイベントをきっかけとして、異文化交流を続ける地域がでてきた。	交流は生まれてはいるが、その人たちが地活協の担い手になってくれるかはまだまだこれからである。そうなるためには地活協側が斬新なアイデアに対して、決して否定せず、柔軟に対応する必要がある。大きなものではなく、小さな成功を積み重ねてもらいたい。目先の1年だけではないく、5年後10年後を見据えたビジョンをもちながら、他の成功例だけではなく失敗例も交えて地活協側に紹介していく必要がある。
		昨年度から継続している取組みのほか、動画などの新たな手法による取組みを開始するなど、次代の担い手を発掘するために様々な手法で事業を実施できている。	**既存の事業実施を何とかこなしていたような地域が、外国籍住民との交流をきっかけに、新たな事業を実施、継続できるようになるなど、大きな成果が出ている。各取組みの参加者からの評判も非常によい。外国籍住民が多いという区の特色をチャンスととらえ、それを事業として実施していこうと地域の人を動かす支援ができている。**	**受託者記載のとおり、交流ができている状態から地域の担い手となっていくためにはさらなる工夫や支援が必要である。また外部の人を受け入れることに慣れていない地活協も多い。地域の人の声もよく聞きながら、小さな成功を積み重ねられるよう連携のサポートをしていってほしい。**
「広報に関する」支援	「自ら人材育成」 「合同広報ポスター支援」 「合同広報動画支援」 「広報専門スーパーバイザー制度」 「地活協行事PR支援」 「まちレク」	ポスター制作支援5地域 動画制作支援6地域 地活協行事、企画　PR支援　　19件	広報に慣れていない地域の夏祭りの広報ポスターの作成支援では、作成のみならず、具体的にポスターの掲示場所をアドバイスすることで、予想以上の集客の効果が得られた。 また、広報物の作成過程で、地域行事の目的を再確認してもらうなど、広報を通じて、事業のあり方を考え直すきっかけとなった。	従来のSNS、ブログなどの手段では行き詰まりを感じており、地域の広報担当者の苦労も目立つ。我々が「まちレク」など、積極的に新しい広報の仕方を実験的に行い、地域の広報担当者にヒントをあたえていきたい。地域内で広報がうまくいっている人たちとの交流の場を作ってみるのも有効性があると思われる。
		地域の実情やレベルに応じた広報支援を行っている。また自ら「まちレク」を行い、地活協にかかる広報を行うとともに、広報の可能性や手法を地域に示している。 広報専門スーパーバイザーと連携するなど支援体制も十分整っており、効果的に実施できている。	**地域に寄り添った広報支援を行っており、地域の信頼も得ている。事業にかかる広報では、集客など目的を明らかにして、やらされ感なく、自主的に取り組めるよう支援している。また、何をPRするかを考える過程で、事業の見直しを検討するなど広報を元に運営に繋がっている。**	**自らが広報を体現しており、地域へその姿を見せることにより、地域が新たなアイデアを生み出すなど、今後の効果に期待したい。（再掲） 地域で困っている課題を解決するために成功例を伝えることは一番の近道になるので情報の共有は積極的に進めてほしい。**